

環境への取組みと 社会との共生



神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』

—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■高効率蒸気供給ヒートポンプシステム 「スチームグロウヒートポンプ」を製品化

神戸製鋼は、東京電力(株)、中部電力(株)、関西電力(株)とともに、世界で初めて120～165℃の蒸気を高効率に供給することができるヒートポンプシステムを共同開発しました。

このシステムでは、高圧縮比・高温対応スクリュウ圧縮機の開発や、圧縮機モーターの高温対応化、高温に適した冷媒の採用などにより、120℃以上の高温蒸気の供給が可能となりました。生産工程からの温排水や、低温度熱源水(25℃～65℃)からの熱回収により、従来のガスボイラに比べ約6割の省エネルギーと約7割のCO₂排出量削減を達成しています。

これにより、蒸気を使用する多くの工程において、ヒートポンプシステムの適用範囲が拡大し、さまざまな工場での採用が見込まれます。



高効率蒸気供給システム「SGH120」

■ハイブリッド油圧ショベルで環境大臣表彰を受賞

コベルコ建機は、現行機に比べ40%ものCO₂削減を実現した8t級ハイブリッド油圧ショベル「SK80H(本体型式SK80H-2)」で、平成22(2010)年度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰(技術開発・製品化部門)」を受賞しました。同賞は平成10(1998)年に創設され、地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体に贈られます。

コベルコ建機では、1999年からNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)および神戸製鋼と共同で研究を進め、2006年に世界初のハイブリッドシステム採用の油圧ショベル開発に成功し、さらに高度化を進めてきました。その成果のひとつであるSK80Hは、2010年6月には国土交通省「低炭素型建設機械」(平成22年4月創設)の第1号機として認定登録されました。

ハイブリッドシステムを軸にした低燃費技術は、他機種への展開も積極的に行い、製品を通じた低炭素社会の実現に向けていっそうの貢献をしていきます。



2010年12月に行われた授賞式の様子



ハイブリッド油圧ショベル「SK80H」

社会貢献への取り組み

次世代の育成支援

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの健やかな成長をお手伝いするため、従業員による小学校での出張授業などの活動や、地域交流施設灘浜サイエンススクエアでの自然教室の開催などに取り組んでいます。

世界各地の事業所でも、例えば、プロテック コーティング社(米国)では、従業員が地元小学校の子供たちと交流したり、コウベ プレジジョン テクノロジー社(マレーシア)では、事故などで親をなくした子供たちの施設に冷蔵庫やスポーツウェア、支援金の寄付を行なうなど、様々な活動を行なっています。

このほか、2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」でも、子供たちを対象に毎年様々な支援を行なっています。2010年度は、子育て支援センターや小学校、保育所の教材や遊具の購入支援などを全国の各事業所で行ないました。

復旧・復興への支援

神戸製鋼グループは、阪神・淡路大震災の際、多くの方々から温かいご支援をいただきました。その感謝の気持ちを忘れず、災害からの復旧・復興支援などにも取り組んでいます。

2010年に発生したハイチ大地震では義捐金の寄付を、



寄贈した建設機械(同機種)



チャリティーイベントの様子

神戸製鋼グループは、今後も、こうした活動を継続し、社会との共生を目指してまいります。



寄贈された鉄棒で遊ぶ子供たち



出張授業



施設への訪問、支援活動

チリ大地震では、被災した高炉復旧のための技術者派遣を行ないました。

また、このたびの東日本大震災でも、義捐金と建設機械7台などの救援物資をご提供したほか、ラグビー部によるチャリティー交流会の開催、選手による防寒着の寄付なども行ないました。



支援物資提供の様子